学校番号	1206

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」　（光村図書）						
副教材等	ペン習字の基礎（教育図書）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・毎時間、毛筆や硬筆などの課題に応じて学習成果（作品）を提出してもらいます。
・古典や手本をよく観察し、その特徴を理解し、表現できているか、最後まで自己の能力を最大限に発揮する取り組みをしているか、用具、用材を適切に扱うことが出来ているかが大切になります。
・幅広い鑑賞の学習活動に取り組み、書のよさや美しさを感じ取り、それを表現する言語能力を身に付けていきます。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
書のよさや美しさを感受し、創造的に構想を練り、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を深く味わい捉えたりすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現方法や形式、書表現の多様性が幅広く理解できる。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	書へのいざない	○書写と書道の共通点と相違点を理解する ・用具・用材の種類や表現の変化を学ぶ ・姿勢や執筆法の基本を理解し、身につける ・書の形式について理解し、調和した表現を工夫する	a:用具・用材の種類や表現の変化を理解できる。（知） c:主体的に書写と書道の共通点と違いを理解しようとして取り組んでいる。	作品		授業態度 ワークシート
	楷書の学習	○様々な楷書古典を学ぶ ・臨書学習を通して基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ ・各古典の時代を知り、表現の違いと、その特徴を理解する	a:楷書体の歴史や書風と用筆・運筆との関わりなどについて、理解できる。（知） a:楷書古典に基づく基本的な用筆・運筆や字形を理解し、表現するための必要な技能を身に付ける。（技） b:古典の書風に即した用筆・運筆、字形について構想し表現を工夫し、様々な楷書の美を味わい捉える。（表） c:主体的に楷書の表現及び鑑賞の幅広い活動に粘り強く取り組もうとしている。	作品	作品	授業態度
	行書の学習	○行書古典を学ぶ ・臨書学習を通して基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ ・王羲之と蘭亭序について知る ・蘭亭序を半切1/2に臨書する	a:行書体や、書風と用筆・運筆の関わりについて書の創造的活動を通じて理解できる。（知） a:行書古典に基づく基本的な用筆・運筆、字形を理解し、表現するための必要な技能を身に付ける。（技） b:古典の歴史的背景や美しさを感受し、形式に即した表現を構想し工夫をする。（表） c:主体的に行書の表現及び鑑賞の幅広い活動に粘り強く取り組もうとしている。	作品 ワークシート	作品	授業態度

	仮名の学習	○仮名の変遷と成立を学ぶ ○仮名の基本線と連綿を学ぶ ・仮名の用具・用材と姿勢や執筆法を理解し、基本用筆を学ぶ ・平安時代の代表的な古筆を臨書する	a:日本の文字の変遷と成立、伝統と文化について理解できる。（知） a:仮名の基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆との関わりを理解し、表現に必要な技能を身に付ける。（技） b:単体と連綿や墨色の変化など全体の構成について構想し工夫する。（思） c: 仮名の古筆の多様な表現と美、技法に関心を持ち、表現や鑑賞の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。（主）	作品 ワークシート	作品	授業態度
後期	篆書・篆刻の学習	○篆刻の学習 ・篆書古典の学習を通して、基本的な用筆・運筆法を学ぶ ・篆書を使用した姓名印を刻す	a:篆書の基本的な用筆・運筆と字形の特徴を理解できる。（知） a:篆刻の基本的な技法を理解し、作品を効果的に表現するために必要な技能を身に付ける。（技） b:意図に基づいて表現を構想し、全体構成を工夫する。（表） c: 篆刻の技法や書作品への効果に関心をもち、主体的に表現の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。	作品	作品 ワークシート	授業態度
	漢字仮名交じりの書の学習	・「座右の銘」を創作し、表現方法を学ぶ	a: 書の表現方法や形式など構成に関わる要素について幅広く理解できる。（知） a:目的や用途に即した構想に基づいた効果的な表現をする技術を身に付ける。（技） b:漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、墨色・墨量の関りと全体の構成などの表現を工夫し、多様な美を味わい捉える。（思） c: 主体的に自身の表現に基づく漢字仮名交じりの書の幅広い表現の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。	作品	作品 相互批評	授業態度 鑑賞レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度